

アレイからすこじま

現在のアレイからすこじまは、かつて呉海軍工廠の岸壁だった場所で、その多くは 100 年以上前のものである。呉湾に面した花崗岩の防波堤は 1895 年に建てられたもので、レンガ造りの遊歩道には 1900 年前後の赤レンガ倉庫をはじめとする歴史的建造物が並んでいる。また、この公園は、日本でも数少ない民間人が活動中の潜水艦を垣間見ることができる場所でもある。

「アレイからすこじま」という名前の由来は、かつてそこに集まっていたカモメのような鳥にちなんで「からす小島」と名付けられたと考えられている。呉湾に浮かぶ周囲約 40m の小さな島で、大正時代（1912～1926）までは魚雷発射場のために埋め立てられていた。

呉と帝国海軍はイギリスの海軍文化の影響を強く受けていた。1870 年の勅令では、イギリス海軍が日本の海軍のモデルとされています。その結果、帝国海軍と呉海軍所は、英国の軍事的伝統と建築を模倣したものとなった。このイギリスの影響は、ドックエリアが公共スペースとして再建されたように、英国の建築要素の形で今日も残っている。埠頭に平行して走る通りが、日本の古い英国の路地に似ていることから、公園の名前に「アレイ」という言葉が付けられた。

歴史的に、呉湾はその存在のほとんどが民間人の立ち入りを禁じられてきた。第二次世界大戦前は呉海軍工廠の埠頭として機能し、戦後の連合国軍占領下では英連邦進駐軍が使用していた。

1985 年によりやく市民に開放され、呉市が公園として整備したが、現在はドック自体は海上自衛隊が使用しており、一般人の立ち入りは禁止されている。

今日のアレイからすこじまは誰でも散策できる。ドックを歩いていると、赤れんが倉庫、近代的な JSDM 駆逐艦や潜水艦、かつて魚雷を持ち上げるのに使われた旧式の海軍クレーン、さらには退役したアメリカの大砲など、呉の歴史の様々な地点からの建物やその他の遺物に出会うことができる。アメリカ南北戦争（1861～1865）のために生産された大砲だが、終戦時には陳腐化していた。日本政府はこれらの時代遅れの砲を低価格で入手し、ドックの係留柱として再利用した。現在は栈橋に沿って銃口を下げて埋設されている。